

ともに描く ぼくらの未来予想図 ～10年後の松本 2010 → 2020～



http://matsumoto2020.com

JCI 2010年度 社団法人 松本青年会議所

協力
エクセラン高等学校 / 松本第一高等学校 / 長野県松本美須ヶ丘高等学校
松商学園高等学校 / 長野県松本工業高等学校 / JR東日本 松本駅

後援
松本市 / 松本市教育委員会



「ともに描く ぼくらの未来予想図 10年後の松本」の作成にあたって

私たち青年会議所メンバーが子ども時代を過ごした1970年代、来るべき21世紀の未来予想図が盛んに描かれ、子どもたちは皆、ワクワクしながらそれを見ていました。透明のチューブでつながれた高層ビルの間をエアカーが飛び交い、宇宙旅行にも出かける人々。…さすがにそこまでの世の中は、まだ訪れませんが、携帯電話や壁掛けテレビなど、かなりのものが実現化され、私たちは普通に利用しています。ものの豊かさを追い求めることの是非は別にして、人は未来をイメージしながら、それを実現させようとするところこそ、やる気の源になります。

最近ではテレビや雑誌などでも未来予想図を目にすることがなくなりました。長引く景気低迷や人口減少など、とかく暗い話題が多い昨今、子どもたちはどんな未来をイメージしながら、この時代を過ごしているのでしょうか。

このような状況を受けて私たちは、将来を担う若い世代のために、次の時代の未来予想図を掲げたいと考えました。「将来、若者が熱くなれる魅力ある街」というテーマに重きを置き、大人が先導して掲げる将来ビジョンではなく、実際に10年後の松本の主役になっているであろう現在の高校生を主役に据えて、一緒に検討を重ねてきました。

自分たちの暮らしこそこの松本のことを真剣に考えることで、彼ら自身にも強い郷土愛が育まれるものと捉えたものです。

未来予想図の作成にあたっては、まず、大名町通りの旧鶴林堂ビルに「未来予想図創造室」を設置し、プロジェクトの舞台としました。そして、経済、交通、環境、食文化など9つのテーマを設けてグループに分かれ、高校生と青年会議所メンバーとでワークショップを重ね、「10年後の松本」の将来ビジョンをつくりました。そこから、美術部のメンバーにバトンタッチして、大キャンバスに、その将来ビジョンを具現化してもらいました。

そして、完成した未来予想図は、高校生が最もよく利用する松本駅の改札前に展示し、この未来イメージをもって、都会で知識や技術を身につけたのち、松本に戻って夢を叶え、活躍してもらいたいと思っています。自分の夢の実現のための努力が、ひいては地域の発展にもきっとつながると私たちは考えています。

最後に、今回のプロジェクトに賛同し、多大なるご協力をいただきました各学校の生徒の皆さま並びに職員の皆さま、松本市役所の皆さま、松本市教育委員会の皆さま、JR松本駅職員の皆さまには、心より感謝申し上げます。



2010年度 社団法人 松本青年会議所
 故郷の誇り創造会議 議長
富樫 慎

【故郷の誇り創造会議メンバー】
 赤羽 一仁 中林 玲
 浅川 貴央 上田 裕敏
 大久保 勝美 小野 裕也
 早田 和重 三澤 彰
 吉澤 祐介

【担当副理事長】 中田 忠章
 【第51代 理事長】 水野谷 武士

★ 子ども教育

信州は教育県とよく言われます。確かに夏休みが短く、登校時間も早く、学校にいる時間は全国トップクラスだと思われます。しかし、これが学力に反映されているかというところでもなく、学力テストの全国順位は中盤そこそこといったところで、教育県の座はもはや秋田に奪われてしまった感もあります。

最近では基礎学力よりも、社会で生きていくための総合力を身につけることが必要だというような言われ方がよくされます。しかしながら、中学高校くらいまでは、やはりしっかりした基礎学力が最も重要ではないでしょうか。学力を身につけるための方法にも地域性や独自性が重要で、学力と体力には相関があることが、近年の研究で明らかになっています。松本の学校は総じてグラウンドが広く、周囲にも思いっきり走れるところや、山のアップダウンを駆け巡れるようなところがたくさんあります。信州は駅伝やマラソンも盛んな地域です。まずは、持久走のプログラムをつくって、しっかりと体力を身につけます。そして10年後には、豊かな自然環境のなかで、体を適度に動かしながら、知識を身につける「松本式勉強法」が確立され、実績をあげています。これを知った教育熱心な親たちが松本に移住し、さらに学力が伸びるとともに、若い世代の人口が増えるという好循環を生み出していることでしょう。学力に続いて大切なものは、松本らしい子どもを育てることだと考えます。長野県の若者は、東京の大学に進むと、決まって「スキー上手いんでしょ」と言われます。これは大きな誤解ですが、それならいっそ、「間違いない信州松本人らしい」と回りから認められるような子どもを育てようではありませんか。登山技術がある、山菜採りが上手い、バイオリンが弾ける、これように何でもよいのです。10年後の松本の子どもは、皆、地域的な特技を身につけたうえで、都会に旅立ち、各地で注目を集める人材として羽ばたいていくことでしょう。そしてこのような松本人らしさは、誰がどこで教えるべきものでしょうか。やはりこれらは、家庭や地域が教えるべきものだと考えます。核家族が多く、近所づきあも薄い都会に比べ、松本のよいところは、おじいちゃん、おばあちゃんがいる家庭がまだまだ多く、地域のコミュニティもしっかりしていて、伝統文化も



たくさん残っているというところ。このような環境のなかで、大人の世代がしっかりと意識をもって子どもと接すれば、自ずとしっかりした子どもが育ちます。10年後の松本は、地域特性を活かし、明るく、元気で、知的で、たくましく、礼儀正しい子どもが育つまちになっていることでしょう。

★ 自然環境

私たちの松本は、北アルプスや美ヶ原といった美しい山並みを望み、整った田園風景が連なり、市街地に湧水が流れる豊かな自然環境に恵まれています。しかしながら、近年、その美しい自然環境も開発などにより、失われてきている部分もあります。私たち市民にとって、また重要な観光資源でも、この自然環境を活かしたまちづくりを行わなければなりません。自然環境については、次の3つの視点からアプローチして将来像を考えてみました。

①市街地：市街地には街路樹が美しく整えられ、至るところに湧水があり、美しい女鳥羽川の流れを形成しています。環境整備に対する市民の意識が高く、日々の清掃活動が行き届き、ゴミや落ち葉さえもほとんどみられません。観光客もこの活動を目にし、マナーが向上しポイ捨てなどをする人は誰もいません。美しいまちが保たれています。②里山：松本の市街地の周囲には田園風景が広がり、そこには人の手の加わった里山が形成されています。近年の農業集落の過疎化、高齢化などにより、里山も荒廃が進んできていることが危惧されていますが、里山は昔から、木の実や山菜を採ったり、狩猟をしたり、薪の切り出しや炭焼きなどを行ってきた貴重な自然資源です。松本は都市部と里山が近接していることから、住民同士の交流などを深め、都市住民の憩いの場として活用しながら、保全をすることがしやすい基盤を備えています。アウトドアレジャーの一環で、山歩きをしながら下草刈りや遊歩道整備など、楽しみながら手入れを行うことで美しく、利用価値の高い、里山が保たれます。③山岳：里山のさらに外側には、北アルプスなどの雄大な大自然が広がります。これらはまさに巨匠松本としてだけでなく、世界的にも貴重な財産でもあります。人気の高い観光地でもあるため、毎年大勢の観光客登山客がこの大自然のなかに入ります。人が入ることにより、ゴミなども目立つようになってきているほか、貴重な高山植物などを採取されるなどの問題も発生しています。10年後には、入山者に対する意識づけが非常にしっかりとっている、マナーのよい登山が行われる先進地として、他の山岳観光地域の手本となっています。以上のような取り組みにより、美しい自然環境が自慢の松本として、多くの人に愛されるまちになっていることでしょう。

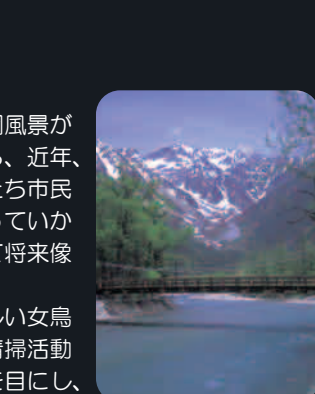
★ 音楽

松本で音楽といえば、まずサイトウ・キネン・フェスティバルがあげられます。国内のみならず、海外にもこのイベントを心待ちにしているファンも多く、シーズンには多くの来訪者でまちが賑わいます。そして、松本は世界中の人に親しまれているスズキ・メソードの発祥の地でもあります。また、小中学生の brassバンドの活動も活発で、全国大会常連の学校も多くあります。最近では市民団体の手により運営される松本ミュージックフェスティバルも定着してきました。日本中で松本ほど楽部の名が似合うまちはないでしょう。しかし、本当に市民の日常生活に深く音楽が浸透しているかと問われると、まだ十分ではないように思われます。この素晴らしい音楽の土壌を活かしながら、まちづくりに展開していかなければなりません。10年後の松本には、街中に音楽が溢れています。かつてシャッター通りだった商店街は、夜は歩行者天国になり、活気に溢れています。飲食店の中からは生バンドの演奏が聞こえてきます。流れてくる音楽のジャンルも様々で、ロック、ジャズ、クラシック、ラテンのリズムも聞こえてきます。店に集う市民や観光客も、音楽を通じてより打ち解け、交流が進みます。日本の伝統音楽の演出もあります。松本城や四柱神社、深志神社では毎月、雅楽や能、長唄、琴、三味線などが奏でられ、日本の伝統文化が受け継がれるとともに、外国人観光客も、興味深くこれを聞いています。音楽は医療分野にも活用され、松本は最先端の音楽療法を取り入れたまちになっています。音楽が心を癒し、心身の健康回復を手助けします。病院には、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバーが出前コンサートを開いてくれたり、小学生在がマーチングバンドの練習の成果を見せに來たりします。また、音楽療法は聞くだけではなく、演奏する楽しさ、喜びも、病氣や怪我の回復に効果をもたらします。ピアノの先生は左手の使えない患者さんに、右手だけで弾ける曲を教えてくれます。小児病棟の姉妹さんらは指揮者といふノリで入院中の子どもたちと一緒に合唱します。いつの間にか皆が笑顔を取り戻しています。松本は健康で長生きなまちとして注目を集めています。このように、私たちの松本は市民1人ひとりが音楽に親しむ、本物の楽都に成長していることでしょう。

2020年までの未来ストーリー ★★

★ 交通

松本は城下町のため、道が狭いうえに川にも囲まれており、橋を渡る箇所などで、交通が滞りやすい特性があります。また、バイパス整備が十分でないため、通過交通と市街地へのアクセス交通が混在することや、シーズンによっては、観光交通も重なることで、混雑に拍車を掛けています。渋滞が激しくなるとドライバーのイライラも募り、運転マナーも自ずと悪くなります。最近よく耳にする「松本ルール」、即ち交差点で対向左折車と同時に強引に突っ込む危険な右折方法ですが、これも根本的には焦りによるものです。しかし、単にマナーが悪いと言ってもええばそれまでですが、実は右折レーンのない交差点で、後続車に迷惑を掛けたくないという配慮の気持ちもそこにはあります。このとき、対向車線側のドライバーも、周囲に配慮しながら、上手に右折車を通してやれば、円滑な道路交通が促進されるかもしれません。10年後の松本では、ドライバー同士の譲り合いにより、道路が効率よく利用されています。道路拡充により、渋滞をなくす時代はもう終わりで、これからは道路や車の使い方によって、交通を円滑にしている時代です。松本はそのモラル的なまちになっているでしょう。さらに、道路交通の負荷を減らす最も良い方法は、マイカーの利用を控えることです。マイカーに依存した生活は環境にも悪いだけでなく、健康も阻害します。10年後の松本は、自転車道が整備され、郊外から市街地まで自転車で快適に通学や通勤ができます。公共交通の利用者が増えたことで、運行便数も増え、バスや鉄道も今よりさらに充実し、市街地の新交通システムや100円バスの復活など、もっと使いやすくなっています。次に広域的な交通に目を向けると、松本には空港があります。昨年よりFODAが新規就航し、利用者も定着してきています。10年後の松本空港には多くの外国人観光客が降り立っています。アジアの国際ハブ空港への直通便が飛び、松本は国際的に人気のある観光都市として認知されるようになっていきます。また、鉄道通学については、北陸新幹線も延伸され、リニア開通への機運も高まっていますが、あっという間に目的地に着いてしまう新交通ではなく、旅の気分を徐々に盛り上げる「あずさ」での来訪が再び人気を集めています。交通は便利なことだけが目的ではありません。それ自体も旅の大きな要素です。そのあたりに着目した交通機関の再整備により、松本は10年後、さらに人の集まるまちになっているでしょう。



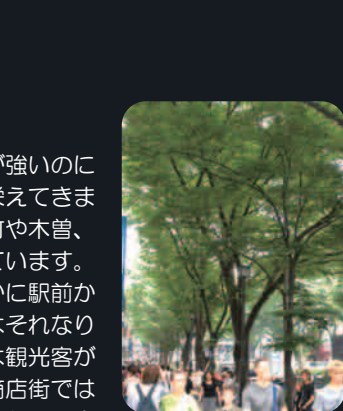
①市街地：市街地には街路樹が美しく整えられ、至るところに湧水があり、美しい女鳥羽川の流れを形成しています。環境整備に対する市民の意識が高く、日々の清掃活動が行き届き、ゴミや落ち葉さえもほとんどみられません。観光客もこの活動を目にし、マナーが向上しポイ捨てなどをする人は誰もいません。美しいまちが保たれています。②里山：松本の市街地の周囲には田園風景が広がり、そこには人の手の加わった里山が形成されています。近年の農業集落の過疎化、高齢化などにより、里山も荒廃が進んできていることが危惧されていますが、里山は昔から、木の実や山菜を採ったり、狩猟をしたり、薪の切り出しや炭焼きなどを行ってきた貴重な自然資源です。松本は都市部と里山が近接していることから、住民同士の交流などを深め、都市住民の憩いの場として活用しながら、保全をすることがしやすい基盤を備えています。アウトドアレジャーの一環で、山歩きをしながら下草刈りや遊歩道整備など、楽しみながら手入れを行うことで美しく、利用価値の高い、里山が保たれます。③山岳：里山のさらに外側には、北アルプスなどの雄大な大自然が広がります。これらはまさに巨匠松本としてだけでなく、世界的にも貴重な財産でもあります。人気の高い観光地でもあるため、毎年大勢の観光客登山客がこの大自然のなかに入ります。人が入ることにより、ゴミなども目立つようになってきているほか、貴重な高山植物などを採取されるなどの問題も発生しています。10年後には、入山者に対する意識づけが非常にしっかりとっている、マナーのよい登山が行われる先進地として、他の山岳観光地域の手本となっています。以上のような取り組みにより、美しい自然環境が自慢の松本として、多くの人に愛されるまちになっていることでしょう。



①市街地：市街地には街路樹が美しく整えられ、至るところに湧水があり、美しい女鳥羽川の流れを形成しています。環境整備に対する市民の意識が高く、日々の清掃活動が行き届き、ゴミや落ち葉さえもほとんどみられません。観光客もこの活動を目にし、マナーが向上しポイ捨てなどをする人は誰もいません。美しいまちが保たれています。②里山：松本の市街地の周囲には田園風景が広がり、そこには人の手の加わった里山が形成されています。近年の農業集落の過疎化、高齢化などにより、里山も荒廃が進んできていることが危惧されていますが、里山は昔から、木の実や山菜を採ったり、狩猟をしたり、薪の切り出しや炭焼きなどを行ってきた貴重な自然資源です。松本は都市部と里山が近接していることから、住民同士の交流などを深め、都市住民の憩いの場として活用しながら、保全をすることがしやすい基盤を備えています。アウトドアレジャーの一環で、山歩きをしながら下草刈りや遊歩道整備など、楽しみながら手入れを行うことで美しく、利用価値の高い、里山が保たれます。③山岳：里山のさらに外側には、北アルプスなどの雄大な大自然が広がります。これらはまさに巨匠松本としてだけでなく、世界的にも貴重な財産でもあります。人気の高い観光地でもあるため、毎年大勢の観光客登山客がこの大自然のなかに入ります。人が入ることにより、ゴミなども目立つようになってきているほか、貴重な高山植物などを採取されるなどの問題も発生しています。10年後には、入山者に対する意識づけが非常にしっかりとっている、マナーのよい登山が行われる先進地として、他の山岳観光地域の手本となっています。以上のような取り組みにより、美しい自然環境が自慢の松本として、多くの人に愛されるまちになっていることでしょう。

★ 城下町

日本中に城下町はたくさんありますが、その多くで画一的なまちづくりが進み、本当に城下町らしいところは数少なくなっています。私たちの松本も城下町らしい雰囲気をもったところは僅かに、オフィスビルや商業施設が建ち並ぶほか、中心市街地にも、高層マンションが多く建設されてきています。城下町松本として、市民の居心地のよい、そして観光客にとって魅力的なまちづくりを進めていかなくてはなりません。10年後の松本、そこには昔の姿が取り戻され、城下町の面影を残すまちが整備されています。お城も外堀や御殿などが復元され、その周囲には、江戸時代風の茶屋や食事処、地域の特産品を売るお店などが連なっています。お城好きや歴史好きを問わず、生まれ変わった観光地として国内外から注目を集めるようになっていきます。古い街並みを再現するだけでなく、駅周辺には都市的な機能も充実しており、観光客に対する情報発信も、IT技術などを活用して行われています。まず観を降りると、大きな公共の電子掲示板がリアルタイムに情報を伝え、1人ひとりがほしい情報に辿り着けるようタッチパネル式のディスプレイなども整備されています。これによって、皆が迷うことなく、自分の楽しみたい松本の観光スタイルを選び、満喫できるようになっています。お城はある種のテーマパークのようになっていて、城内に入るためには、通行手形が必要で、関所でこの手形を見せて出入りします。手形には種類があり、さまざまなサービスに手形になっています。イベントや市内の交通機関や公共施設、飲食や宿泊など、松本のまちを幅広く楽しむことができるようになっています。お城やそのまわりではさまざまなイベントやツアーが行われています。城内ではお花見や能や狂言、火縄銃の模擬演習などの催しが観光客を楽しませています。お城の外では、史跡を巡るウォーキングツアーや湧水巡りツアーなども行われ、これらは地元の市民ガイドにより支えられています。また、市民ボランティアは定期的に清掃活動を行い、城下町を美しく保っています。このように、お城を中心に、観光客と市民が一体となってまちを盛り上げている松本は、1泊2日程度の行程で見切れないほどの魅力に溢れており、訪れた観光客がもう一度来たいと思い、そしてまた来たときには新たな発見があり、リピーターとして定着するような、そんなまちになっていることでしょう。



①市街地：市街地には街路樹が美しく整えられ、至るところに湧水があり、美しい女鳥羽川の流れを形成しています。環境整備に対する市民の意識が高く、日々の清掃活動が行き届き、ゴミや落ち葉さえもほとんどみられません。観光客もこの活動を目にし、マナーが向上しポイ捨てなどをする人は誰もいません。美しいまちが保たれています。②里山：松本の市街地の周囲には田園風景が広がり、そこには人の手の加わった里山が形成されています。近年の農業集落の過疎化、高齢化などにより、里山も荒廃が進んできていることが危惧されていますが、里山は昔から、木の実や山菜を採ったり、狩猟をしたり、薪の切り出しや炭焼きなどを行ってきた貴重な自然資源です。松本は都市部と里山が近接していることから、住民同士の交流などを深め、都市住民の憩いの場として活用しながら、保全をすることがしやすい基盤を備えています。アウトドアレジャーの一環で、山歩きをしながら下草刈りや遊歩道整備など、楽しみながら手入れを行うことで美しく、利用価値の高い、里山が保たれます。③山岳：里山のさらに外側には、北アルプスなどの雄大な大自然が広がります。これらはまさに巨匠松本としてだけでなく、世界的にも貴重な財産でもあります。人気の高い観光地でもあるため、毎年大勢の観光客登山客がこの大自然のなかに入ります。人が入ることにより、ゴミなども目立つようになってきているほか、貴重な高山植物などを採取されるなどの問題も発生しています。10年後には、入山者に対する意識づけが非常にしっかりとっている、マナーのよい登山が行われる先進地として、他の山岳観光地域の手本となっています。以上のような取り組みにより、美しい自然環境が自慢の松本として、多くの人に愛されるまちになっていることでしょう。



①市街地：市街地には街路樹が美しく整えられ、至るところに湧水があり、美しい女鳥羽川の流れを形成しています。環境整備に対する市民の意識が高く、日々の清掃活動が行き届き、ゴミや落ち葉さえもほとんどみられません。観光客もこの活動を目にし、マナーが向上しポイ捨てなどをする人は誰もいません。美しいまちが保たれています。②里山：松本の市街地の周囲には田園風景が広がり、そこには人の手の加わった里山が形成されています。近年の農業集落の過疎化、高齢化などにより、里山も荒廃が進んできていることが危惧されていますが、里山は昔から、木の実や山菜を採ったり、狩猟をしたり、薪の切り出しや炭焼きなどを行ってきた貴重な自然資源です。松本は都市部と里山が近接していることから、住民同士の交流などを深め、都市住民の憩いの場として活用しながら、保全をすることがしやすい基盤を備えています。アウトドアレジャーの一環で、山歩きをしながら下草刈りや遊歩道整備など、楽しみながら手入れを行うことで美しく、利用価値の高い、里山が保たれます。③山岳：里山のさらに外側には、北アルプスなどの雄大な大自然が広がります。これらはまさに巨匠松本としてだけでなく、世界的にも貴重な財産でもあります。人気の高い観光地でもあるため、毎年大勢の観光客登山客がこの大自然のなかに入ります。人が入ることにより、ゴミなども目立つようになってきているほか、貴重な高山植物などを採取されるなどの問題も発生しています。10年後には、入山者に対する意識づけが非常にしっかりとっている、マナーのよい登山が行われる先進地として、他の山岳観光地域の手本となっています。以上のような取り組みにより、美しい自然環境が自慢の松本として、多くの人に愛されるまちになっていることでしょう。

★ 食文化

私たちの暮らし信州松本は、海の幸こそありませんが、昔から独自の食文化を育んできました。代表的な郷土料理と言えば、「信州そば」「野沢菜」「馬刺し」「おやき」などが思い浮かびます。新しいところでは「山賊焼き」などもそのネーミングの妙も相まって定番になりつつあります。その他、「いなこ」「ざざむし」「蜂の子」などという、最近ではあまり食べられなくなってしまった珍味や、伝統の「七夕ほうとう」など忘れられつつある風習もあります。これらの食文化をまちづくりに活かしていくことはできないでしょう。

例えば信州の初冬の風物詩として、野沢菜漬物の仕込みがあります。最近では核家族化の影響などもあり、一般の家庭ではあまり見受けられなくなってしまいました。地域イベントとして子どもたちに農業体験から一貫して、このような食材の加工まで体験してもらう事ができれば、食育にもなり、なにより食文化の継承に役立てる事ができるのではないのでしょうか。そして一番大切なことは、私たち市民が、この伝統の食文化を普段から愛着をもって食べ続けていくことです。「信州そば」は間違いない名物ですが、日常的に食している地元の人はいないように思われます。「讃岐うどん」のように、地元の人が毎日のように食べる料理こそが、名物の名にふさわしいと言えるのではないのでしょうか。

一方で、伝統の名物を継承するとともに、これからの観光誘客に活かせる新名物の考案も大事だと考えています。多くの観光客の方に食べてもらう新名物として必要な条件は、安く、おいしく、短時間で提供できることです。10年後の松本では「松本丼」が定番になっています。まちの飲食店のみ

ならず山小屋などでも提供され、皆が舌つづみを打っています。「松本丼」の特徴は、食材を限定せず、モチーフとして「城」をイメージすることだけです。若者が好きな「松本丼」、外国人に受ける「松本丼」など、店がそれぞれに工夫を凝らします。そして松本城の敷地内では、定期的にフードイベントが開催され、各店が自慢の「松本丼」に腕を振るいます。フードイベントは、昨今の日経グループの成功にみられるように、多くの観光客が全国から詰めかける人の集まる催しになってきています。松本においても「そばまつり」や「サマーフェスト」など、既存のイベントとも連携しながら、四季折々の食材にあわせて趣向を凝らしながら行っています。松本が食で賑わう「食の都」を宣言できたら素晴らしいと思いませんか。

①市街地：市街地には街路樹が美しく整えられ、至るところに湧水があり、美しい女鳥羽川の流れを形成しています。環境整備に対する市民の意識が高く、日々の清掃活動が行き届き、ゴミや落ち葉さえもほとんどみられません。観光客もこの活動を目にし、マナーが向上しポイ捨てなどをする人は誰もいません。美しいまちが保たれています。②里山：松本の市街地の周囲には田園風景が広がり、そこには人の手の加わった里山が形成されています。近年の農業集落の過疎化、高齢化などにより、里山も荒廃が進んできていることが危惧されていますが、里山は昔から、木の実や山菜を採ったり、狩猟をしたり、薪の切り出しや炭焼きなどを行ってきた貴重な自然資源です。松本は都市部と里山が近接していることから、住民同士の交流などを深め、都市住民の憩いの場として活用しながら、保全をすることがしやすい基盤を備えています。アウトドアレジャーの一環で、山歩きをしながら下草刈りや遊歩道整備など、楽しみながら手入れを行うことで美しく、利用価値の高い、里山が保たれます。③山岳：里山のさらに外側には、北アルプスなどの雄大な大自然が広がります。これらはまさに巨匠松本としてだけでなく、世界的にも貴重な財産でもあります。人気の高い観光地でもあるため、毎年大勢の観光客登山客がこの大自然のなかに入ります。人が入ることにより、ゴミなども目立つようになってきているほか、貴重な高山植物などを採取されるなどの問題も発生しています。10年後には、入山者に対する意識づけが非常にしっかりとっている、マナーのよい登山が行われる先進地として、他の山岳観光地域の手本となっています。以上のような取り組みにより、美しい自然環境が自慢の松本として、多くの人に愛されるまちになっていることでしょう。

10年後には、松本山雅FCがJ1に昇格し、満員のアルウィンスタジアムにおいて名だたる強豪チームを打ち破っています。山雅のユースチームや地域、学校単位でのサッカー人気も一層高まり、松本出身のプロ選手が次々と巣立っていきます。このようなスポーツ選手の育成はサッカーにとどまらず、野球、バスケットボール、水泳など、さまざまなスポーツ分野に波及し、選手の養成機関なども設立されています。大きなスポーツイベントがあることは、地域経済にも大きな効果をもたらします。松本は遠征地として、選手やサポーターにも人気があるまちになっており、山雅のホームゲームには、他都市に比べ大勢の観客が集まってきます。自転車の大会も数多く開かれ、四季折々の美しい景色に選手達は魅了され、全国のサイクリストたちの憧れの地となっています。大会ごとに数千人の選手達が松本に宿泊するだけでなく、大会前から合宿を張る選手達もたくさんいて、松本のまちや自然を楽しんでいます。高齢化社会がピークに近づく10年後、マレットゴルフもますます盛り上がりを見せています。お年寄りに手軽にできるマレットゴルフの人気は全国に広まり、美しい松本の自然環境のなかでマレットゴルフ場を巡り歩く高齢者が全国から訪れ、市民とも交流しながら一緒に楽しんでいます。このように幅広いスポーツの盛り上がりにより、地域経済の発展にも寄与するだけでなく、市民1人ひとりの健康も促進されています。スポーツは松本の将来を考えるうえで、非常に大きな役割を果たす分野であることは間違いありません。

★ 国際交流

松本は国際色豊かなまちと言えるでしょうか。まず観光の面からみると、松本に関する外国人観光の詳しい統計はないものの、同規模の地方都市と比べても、外国人観光客が比較的多いように映ります。ただ国際観光都市と呼びには、まだ遠いのが実状です。しかし、松本は外国人観光客に人気の高い、松本城や北アルプスといった観光資源を持っています。これらを手く活かしながらまちづくりを行えば、もっと外国人の集まるまちへと発展していけると考えています。10年後の松本は、外国人観光客が街に溢れています。日本文化の素晴らしさが海外でもさらに認知され、城下町の街並みが再現された松本は、外国人に人気の高い観光地になっています。城下町だけではなく、まちには、外国人が集まるカフェやレストランが多くあることも人気の秘訣で、とても賑わっています。まちの中の案内看板は外国人にも分かりやすく、地域住民もおもてなしの心に溢れています。また、10年後の松本では国際会議も頻繁に開かれています。国際会議観光都市にも指定されている松本市は、2011年に開かれた「国連車協会議」の開催が契機になり、会議の開催地として、徐々に人気度を上げてきています。会議の運営や参加者の歓迎行事などには市民も積極的に協力しています。国際交流を考えるうえで、もうひとつ大事な視点は、地域で暮らし外国人との交流です。現在の松本市の外国人登録者数は約4,000人で、長野市よりも多い数の外国人が暮らししています。留学生が多いことも特徴です。地域住民と外国人との交流も行われているものの、市民全体から見ると、まだまだ少ないのが現状です。パリやニューヨークなどの国際都市は、来訪観光客が多いだけでなく、さまざまな国や地域の人たちが混じり合っており、ごく普通に暮らしていることも大きな特徴です。本当の国際化とは、単に外国人の来客のみを提供できるということだけではなく、自分たち自身がアイデンティティをしっかりともち、この国やこのまちのことをよく知って、それを土台にコミュニケーションを行うということが重要だと考えます。松本は元来、地域アイデンティティの強いまちで、この要素を十分に備えています。10年後の松本は、市民1人ひとりの国際感覚が磨かれており、観光客のおもてなしはもちろん、地域で暮らし外国人とのコミュニケーションも上手く、外国人にとって暮らしやすいと評判の日本を代表する国際都市となっていることでしょう。

①市街地：市街地には街路樹が美しく整えられ、至るところに湧水があり、美しい女鳥羽川の流れを形成しています。環境整備に対する市民の意識が高く、日々の清掃活動が行き届き、ゴミや落ち葉さえもほとんどみられません。観光客もこの活動を目にし、マナーが向上しポイ捨てなどをする人は誰もいません。美しいまちが保たれています。②里山：松本の市街地の周囲には田園風景が広がり、そこには人の手の加わった里山が形成されています。近年の農業集落の過疎化、高齢化などにより、里山も荒廃が進んできていることが危惧されていますが、里山は昔から、木の実や山菜を採ったり、狩猟をしたり、薪の切り出しや炭焼きなどを行ってきた貴重な自然資源です。松本は都市部と里山が近接していることから、住民同士の交流などを深め、都市住民の憩いの場として活用しながら、保全をすることがしやすい基盤を備えています。アウトドアレジャーの一環で、山歩きをしながら下草刈りや遊歩道整備など、楽しみながら手入れを行うことで美しく、利用価値の高い、里山が保たれます。③山岳：里山のさらに外側には、北アルプスなどの雄大な大自然が広がります。これらはまさに巨匠松本としてだけでなく、世界的にも貴重な財産でもあります。人気の高い観光地でもあるため、毎年大勢の観光客登山客がこの大自然のなかに入ります。人が入ることにより、ゴミなども目立つようになってきているほか、貴重な高山植物などを採取されるなどの問題も発生しています。10年後には、入山者に対する意識づけが非常にしっかりとっている、マナーのよい登山が行われる先進地として、他の山岳観光地域の手本となっています。以上のような取り組みにより、美しい自然環境が自慢の松本として、多くの人に愛されるまちになっていることでしょう。



【製作】

敬称略
順不同

松本第一高等学校

美術監修：夏目 陽介 先生
中村 桃子 旭 あや香
降旗 夏希 降旗 早紀
太田 あゆみ

エクセラン高等学校

牧 垣 裕 貴 田 中 英 資
福 島 緑 岩 淵 和 花 菜
芦 澤 ひ かる 出 口 俊 一
小 澤 ち あ き 柴 田 真 里

美術監修：小林 智美 先生

坂 本 晴 佳 塩 澤 舞 子
大 平 有 希 黒 田 柚 里 香
内 田 美 菜 大 庭 龍 時
滝 沢 美 穂 藤 井 志 帆

協力：二木 温 先生

竹 村 望 林 杏 香
宮 川 恵 赤 羽 の そ み
栗 原 杏 樹 小 林 澪 奈
望 月 梨 永 矢 花 久 美

長野県松本工業高等学校

協力：北野 比呂至 先生
下 里 早 紀 横 井 優 介 小 林 遼 太 郎
長野県松本美須ヶヶ丘高等学校
山 田 彩 乃 中 嶋 真 佑 石 川 鈴 水

松商学園高等学校

山 本 淳 平 櫻 井 恵 子
宮 澤 愛 曾 根 原 一 輝
高 嶋 美 月 田 中 玲 舞
竹 内 沙 季

協力：横山 満 先生

山 本 淳 平 櫻 井 恵 子 宮 田 和 希 丸 山 雄 太 萩 原 千 恵 美 市 東 真 一
宮 澤 愛 曾 根 原 一 輝 前 田 航 樽 沼 佑 基 永 井 美 穂 小 松 映 美
高 嶋 美 月 田 中 玲 舞 森 田 雅 子 鈴 木 は る か 丸 田 樹 璃 矢 嶋 葵